

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 4月 21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104310		
法人名	社会福祉法人 広島常光福祉会		
事業所名	グループホームげんき中山		
所在地	広島市東区中山新町3丁目18-6 (電話) 082-508-4188		
自己評価作成日	令和4年1月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104310-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月29日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の方々に明るく楽しく健やかに、笑顔で毎日を過ごして頂けるよう支援している。趣味活動が継続できるよう華道・書道・園芸を日常生活の中に取り入れたり、生花や壁画を飾ることで季節感の感じられる空間を作ったり、入居者同士の新たな人間関係作りのサポート等を行っている。かかりつけ医と連携を図りながら、状態変化等あれば都度相談し、入居者の健康管理に努めている。毎日、リハビリ体操やレクリエーション等で心身共に活動的に過ごせるよう支援している。日々の変化に素早く対応し、本人・家族の意向に沿った介護が提供できるよう、月1回、フロア会議を設け、入居者の状態や対応等を確認・協議している。家族には、状態変化等あれば都度連絡、面会時には日々の様子を報告することで、ホームでの生活状況や様子を把握してもらい、安心してもらえるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

町内会加入だけでなく、学校施設との交流も密にあり、保育園児から小学校、中学校と交流する機会があり、世代間交流の場が多くある。防災の観点からも地域住民との協力関係が構築できおり実際に避難訓練を地域住民参加のもと実施している。その際出た意見として表札を利用し避難済みの目印となるよう改良を加えた実績もある。また、家族間交流の場も設けており年間行事として家族会を定期的で開催しており、事業所でのバーベキュー会など家族参加型の行事を実施している。職員個々に担当や法人委員会に出席することで日々のケアの向上だけでなく職員の技能、意識の向上につながるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に理念や行動指針などを掲示し、いつでも閲覧できるようにしている。毎日の朝礼後に復唱することにより、意識づけを行い、日々の業務に取り組むようにしている。	申し送り時に法人理念、ケア目標、接遇目標を唱和しており業務開始時に意識統一を行っている。法人理念をもとに職員個々に目標を立て、半期ごとに振り返りを行っている。接遇目標は毎月振り返りを行い更新することでより良いケアの向上につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	通常、福祉施設の行事や町内清掃の参加、保育園児との交流や利用者が運営推進会議に参加するなど、地域とのつながりが保てるように取り組んでいる。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、参加等はしておらず、電話連絡や資料回覧を行い、つながりを保っている。	町内会に加入しており日頃から地域清掃などを通じて交流がある。当事業所は通学路に面しており「子ども110番」に登録し、地域の子供たちの安全につながっている。また、保育園児との交流会や中学校の職場体験などの受け入れ実績があり世代間交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	通常、中学生の職場体験で認知症や施設について説明を行い、理解が深まるよう努めている。また、小学生の「こども110番」でスタンプラリーの時には安心して利用して頂けるよう対応している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、行えていないが、感染拡大が落ち着き次第、再開する予定にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	通常、2ヶ月に1回会議を開催し、入居状況や行事報告、夜間想定避難訓練の実施を行っている。また、各委員で情報交換を行い、テーマとして取り入れ、意見が反映されるように活かしている。現在は新型コロナウイルス感染予防対策の為、会議は開催せず、資料の回覧等にて報告や意見交換を行い、サービス向上を図っている。	現在コロナ禍のため会議の開催はできておらず書面や電話での意見聴取を行っている。その中で行事内容や他事業所の情報提供などがあり都度職員会議内で検討しケアの向上につなげている。以前は運営推進会議時に避難訓練を実施し地域の方との意見交換を重ねていた。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より地域包括支援センターと入居状況や待機者の情報交換を行い、協力関係を深められるような取り組みに努めている。	区の介護保険関係課との連携は計画作成担当者が行っており、より実務的な部分での相談や連携を可能としている。実際に介護保険改正時の相談や各種研修会の参加などの実績がある。地域お役立ちマップへの協力を行っており社会資源の1つとなるよう寄与している。	

自己評価	外部評価	項目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は安全面から内側から施錠している。入居者からの希望時には可能な限り付き添いを行い対応している。居室内に関しては、状況に応じてフットコール、サイドコール、ベット柵を家族の同意のもと、使用している。 外部の研修の参加や施設内勉強会を実施し、身体拘束に対する意識向上を図っている。	毎月の職員会議やフロア会議内で利用者の対応を検討しており身体拘束をせず、利用者に寄り添える対応に繋がっている。センサー類の使用についても必要最低限にしており記録も徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する外部研修に積極的に参加したり、施設内でも委員会を作り、委員会中心に勉強会を実施している。毎月、フロア会議で入居者の対応等を話し合う機会を設けている。 皮下出血や外傷発見時には報告書を提出し、それに基づいてカンファレンスを行い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要の方には、家族にそれぞれの制度の活用について情報を提供を行い、活用する際は協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退居時、本人と家族へ口頭と書類でわかりやすく説明を行い同意を得ている。また、改定時にもその都度説明を行い、書面で同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	匿名で意見が出せるように、意見箱を設置している。また、カンファレンス等、家族の意見が出せる機会を作っている。苦情発生時には報告書を作成し、早急に対応し解決できるように取り組んでいる。法人で運営するフリーダイアルの相談窓口があり、意見等あれば連携し対応できるように取り組んでいる。	定期的に家族会や家族参加のもとバーベキュー会などを実施し意見の表せる機会を設けている。今年も新型コロナウイルス感染状況を見てバーベキュー会を企画している。日頃から電話連絡を頻回に行い利用者の生活の質の向上に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やフロアー会議、系の会議等を開催し、会議を通して各職員の意見や提案を聞き、反映できる場を設けている。また、業務内でも意見等があれば、その都度検討し利用者の対応等の改善を図っている。	各職員ごとに役割や委員会を担当しており都度職員間、管理者との話し合いの場を設けている。物品購入のための予算を多めに用意しており職員ごとの裁量で購入可能としている。実際にシャワーチェアーなどを職員発案のもと購入した実績もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、管理者による人事考課の機会を設けている。人事評価の適正や法人内での異動の希望等を確認を行っている。また、定期的に管理者・リーダーで会議を開催し、職場内の環境整備や業務改善等を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力や希望に合った研修が受けられるように情報提供を行っている。そこで得た知識を広める場として、勉強会を行い、他職員とも情報の共有ができるようにしている。また、研修で学んだ知識によって、業務内容の改善等を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	通常、地域密着施設の合同会議の開催、法人内の他施設行事の参加、人事異動による情報交換等で施設内で活かせるものは取り入れるようにしている。外部研修や法人の親睦会では職員同士が交流できる場を設けている。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、オンラインでの会議等の開催等で、交流する機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	これまで本人が生活してきた状況を詳しく聞くようにしている。職員に要望や不安な事が話しやすい関係づくりに努め、傾聴する機会を作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時にここでの生活を詳しく説明し、家族の要望や不安に思っていることが言える機会を設けて、信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人のアセスメントをしっかりと行い、現在必要としている支援等を見極め、サービス計画書を作成するよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人が暮らす中で話を密に行いながら、本人の得意なことを見極め、共に向き合い、時間を共有することで、良好な関係作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>今まで、本人と家族が築いてきた絆を尊重し、また、家族の思い等を考慮し、家族と共に支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>通常、家族に協力して頂き可能な範囲で、外出や外泊で馴染みの場所に訪問をお願いしている。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、ホームのドライブ等を積極的に行っている。</p>	<p>法人内の車いす対応の車両を借りて、状態に合わせた外出支援を行っている。行きつけの美容院と喫茶店への外出をケアプランと連動し、馴染みの方との関係継続に寄与している事例もある。コロナ禍以前は大型商業施設での買い物やボランティアの受け入れも行っていた。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>体操やレクリエーション等を行うことで利用者同士が関わりを持てるよう支援している。職員が間に入ることで会話できるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退居後もこれまでの関係を大切にしてい、いつでも相談やフォローができるよう努めている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>常に本人の暮らし方の希望や意向は傾聴し、職員間で話し合い本人の希望に添えるよう努めている。</p>	<p>利用開始時にご家族の協力のもとアンケートを実施し生活歴や嗜好の調査を行っている。思いの表出が困難な方はそのアンケートをもとに対処を検討している。利用後には利用者との距離感を重要視しており、観察を行う中でこういったものに興味を示すかなど、情報を収集している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人との会話の中から生活歴を聞き出し、把握に努めている。家族からも生活環境やサービス利用の経過等を聞くことで把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>日常生活の中で、一人ひとりの言動や状態を観察し、現状把握に努めている。また、フロアー会議等、職員同士で情報を共有し、一日の生活リズム、有する力の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスは多くの職員が参加できる時間帯に開催し、一人ひとりの意見を取り入れ、ケアへ反映するようにしている。また、本人や家族からの要望を取り入れた介護計画を作成するよう心掛けている。毎月月初めにケース担当者がプランに対してモニタリングをしている。</p>	<p>担当職員がアセスメントから介護計画の原案作成まで行っている。日々ケアチェック表を付け毎月のモニタリングにつなげている。花を育て、押し花を作るという目標を立案し取り組んだ事例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録は誰が見ても状況が分かるように、分かりやすい言葉で記録している。また、ケース記録や伝達ノートを活用することで、職員間で報告・連絡・相談を行い情報共有し、入居者のケアの見直し、改善に活かすよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>社会福祉法人が母体であり、法人の持つ多種に渡る事業、運営施設との協力関係を得ている。本人の状態や家族の事情に応じて、他サービスの紹介や助言等の支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>通常、地域の公民館での活動に参加したり、町内会のお祭り、清掃活動にも入居者と共に参加している。また、地域包括支援センターが主催の催しにも参加している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、実施できていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>各種協力病院があり、希望の病院や必要な治療が受けられるよう、日々連携を図り支援に努めている。また、必要に応じて往診や入院の受け入れ体制を整えている。</p>	<p>利用開始時に主治医の確認を行いほとんどの方が協力病院へ変更している。希望により主治医の継続も可能で、往診の受け入れや受診支援をしている。協力医の往診は週2回あり訪問看護も週1回受け入れ、医療的サポートが充実するよう努めている。また、訪問歯科もあり、口腔衛生にも取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、かかりつけ医の訪問看護師の定期訪問あり、その際、看護師より助言や指導を受けている。入居者に体調の変化等があった場合、訪問看護師から、かかりつけ医に報告のもと指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関へ情報提供をすると共に家族と連携を図り、状態確認や退院後の支援方針について話し合いの場を設けるようにしている。退院後の生活について、病院から情報提供や助言等を受けている。日頃より、かかりつけ医と連携し、関係作りを行っている。家族の希望や状況に応じて、直接、かかりつけ医と話ができるよう体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、重度化や終末期について、書面にて確認を取り共有している。年1回、同様の確認を行っている。また、状況の変化が見られる場合は、家族と連絡を取り合い、状況を説明し、家族と今後のケアや方向性について相談しながら決めている。	現在当事業所での看取りは行っていない。法人内には特別養護老人ホーム等もあり看取り期に際しての希望や意向に柔軟に対応できるようにしている。利用開始時はもとより状態が変化した場合には主治医など医療関係者を交え話し合いを重ね、今後の方向性を話し合う場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時、緊急時対応マニュアルを作成し、事務所内の目につく所に掲示している。また、定期的実践を取り入れた訓練の実施、緊急時の対応の勉強会、指導等を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	通常、年2回、日中、夜間を想定した防災訓練を行っている。夜間想定時、消防署、地域住民を交えて合同の消防訓練を行ったり、運営推進会議にて、地域住民の協力を得られるよう働き掛けている。災害時の避難方法、避難経路の確認・訓練も行っている。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、資料等を活用し、職員間で災害時の対応について確認している。	年2回夜間想定も含めた避難訓練を実施しコロナ禍以前は消防署職員はもとより地域住民も参加していた。訓練での課題を運営推進会議内で話し合い改善し、有事に備えている。備蓄品は水や食料品3日分だけでなく感染対策グッズも必要量備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理解しやすい言葉、行動で対応するよう心掛けている。本人の思いを受容し、人格を尊重するよう努めている。また、入浴時、トイレ時、居室訪問時等、プライバシーに配慮した対応に努めている。	法人全体で接遇委員会が設置してあり当事業所では「扉を細目に閉める」を接遇目標に取り組みを行っている。また、法人内研修も年2回接遇に関して実施し日頃から言葉使いなどを職員ごとに注意し合うことで接遇面の意識向上につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解しやすい声掛けや行動をするよう心掛けている。ゆとりを持って入居者に接し、思いや希望を聞きながら、ケアを行っている。自己決定が困難な方には選択肢を広げることで決めてもらうようにしている。言動や表情等を汲み取り判断し、本人の思いに近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の状態や希望に沿って、ゆったりとした生活空間の中で、食事、入浴、日常生活全般を支援するよう心掛けている。レクや行事への参加の声掛けはするが、強制することなく、一人ひとりの希望や体調に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に服を選んだり、外出時はおしゃれ着を選んだり、個性を大切にされた服装を選択している。理美容は、契約時に出張サービスの利用について確認を行っている。月1回、理美容師に来てもらい、本人や家族の希望に沿った利用をしている。現在新型コロナウイルス感染予防の為、玄関ホールにて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居時、食事嗜好調査(アンケート)等を行い、入居者の好き嫌い、アレルギーの有無等を把握している。食事の片付け等は、一人ひとりの能力に応じた、その人に合った役割、できることを提供している。	日頃の食事の盛り付けから食器洗いまでを担当制にすることで役割の創出につなげている。毎年収穫祭をし、事業所で採れた作物でサツマイモパイやかぼちゃの煮つけを利用者と作っている。また、毎年の花見時には花見弁当として地元仕出し屋に料理を依頼し、楽しみとなるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせた食事の量や形態、道具で提供している。脱水に注意してこまめな水分摂取の声掛け、介助を行っている。月1回、体重測定を実施し、体重の変化に注意し、食事量等の調整をしている。また、必要に応じて体重測定の実施回数を増やしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の汚れ、臭いが発生しないように起床後、毎食後に口腔ケアを行っている。自力での口腔ケアが不十分な方は、介助にて清潔の保持に努めている。就寝時、義歯を回収すると共に週1回、義歯を消毒している。歯科往診を行い、定期的に口腔内の清潔を保持している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりに合わせた排泄対応を行い、本人の自尊心を傷つけないように支援している。排泄パターン、行動を把握し、声掛け・誘導等を行っている。夜間はその人に合わせた排泄間隔でトイレ誘導を行い、夜間しっかりと休めるよう支援している。</p>	<p>「排泄はトイレでするもの」を職員の共通認識とし、排泄表をもとに利用者のタイミングに合わせた誘導を行っている。リハビリパンツから布製下着への改善事例もあり、夜間も定時でのトイレ誘導を実施している。手すりを両側に設置し状態に合わせた介助が可能となっている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりに合わせた下剤コントロールを考え、排便困難にならないように支援している。便の形状、量の観察も行っている。水分補給や適度な運動を行い、自然排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>できる限り一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。ゆず湯等入浴を楽しめる工夫もしている。自尊心に気を付け、洗体が難しい所は介助している。入浴中は事故がないように見守りを徹底している。入浴時、全身の観察を行っている。</p>	<p>希望に合わせて、毎週2～3回入浴している。体調や希望に合わせて足浴での対応など柔軟に対応している。入浴動作について職員のサポートをもとにできるだけ自身で行ってもらい自立支援にも取り組んでいる。季節に合わせたゆず湯や菖蒲湯など、入浴を楽しめる工夫も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>個々の状態に配慮した上で、日 中の臥床やレク・活動の場を設け ることで、心地良く眠れるよう支 援している。個人の馴染みのマッ トやクッションを使用している方 もいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。</p>	<p>主治医の指示を受け、薬担当者 が中心となり内服薬・外用薬を 把握し、管理している。又職員 全員が同じ支援ができるよう、 介助方法の一覧表を作成してい る。誤薬が無いよう声出し確認 も行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>本人の希望やできることを見 つけ、フロアー会議やカンファ レンス等で検討し、個々にあつ た役割分担等を提供している。 入居時には、家族に生活歴ア ンケートを記入してもらい、本 人からの情報だけでは分からな い所を補っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。</p>	<p>外出のニーズに対して個々の身 体レベルを考慮し、日常生活で 外出の機会を設けている。シー ツ出しや畑に花を見に行き、 気分転換ができるように支援 している。外出ができるような ドライブ行事も開催している。 現在は、新型コロナウイルス感 染予防の為、地域行事への参 加や家族との外出は控えている。</p>	<p>当施設敷地内に畑があり、水 やりや草抜きなどの畑仕事を 当番制で利用者が行っている。 天気の良い日には日向ぼっこ ができるようベランダに椅子を 設置し外気浴をしながら利用 者のハーモニカに合わせ歌の レクなどに取り組んでいる。 また、法人内車両を借り上げ 花見や紅葉狩りにも出掛けて いる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>原則、小口預金通帳で管理して いる。本人の希望、管理能力に 応じて所持できるように支援し ている。現在は、新型コロナウ イルス感染予防の為、買物は 控えている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(西フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人が希望する人や家族に、電話したり手紙を送ることで、関係が経たないように支援、配慮している。毎年、家族へ年賀状を出している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者同士でゆっくりとした時間を過ごせるよう、テレビやソファを置き、コミュニケーションが図れるようにしている。また、リラックスして過ごせるよう、音楽やDVDを流している。玄関等に花を生けたり、リビングには壁画等を飾り、季節感を感じてもらえるよう配慮している。</p>	<p>窓の大きな共有空間にソファが設置してありゆったりと過ごせるようになっている。食事テーブルは可動式となっており、利用者の体に合わせた対応が可能となっている。壁には利用者の個人作品の書道や絵画が設置してあり日々の活動の披露する場となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりのペースで過ごせるよう配慮している。気の合う入居者同士で過ごせるよう、食事席の配置や居場所作りを工夫している。利用者のやりたいこと等を確認、提供している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人、家族の希望するものや使い慣れた家具等を配置して、居心地の良かつ安心安全な環境作りに努めている。また、換気や室温調整等、快適に過ごせるよう空調管理も行っている。</p>	<p>各居室の入口には表札が設置してあり、氏名が可動式になっている。これは避難時の目印となり、地域代表の方からの提案で設置することとなった。居室内はエアコン、ベット、カーテン、照明が備え付けとなり危険物でない限り持ち込みが可能となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者が混乱なく、より自立して過ごせるよう、コールの使用やトイレの場所が分かりやすいよう、貼り紙の設置等工夫している。</p>		

V アウトカム項目（西フロアーユニット）← 左記（ ）内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に理念や経営姿勢などを掲示し、業務に取り組む際、常に意識できるようにしている。朝礼時、復唱し業務に入っており、年に2回施設内面接でも確認している。毎年、理念の見直し等も行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍でしていないが、福祉施設の行事、町内清掃や町内集会、体操教室の参加、保育園児との交流や利用者が運営推進会議に参加する等、地域とのつながりを保つ為の取り組みは行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験受け入れ、小学生の「こども110番」等対応していたがコロナ禍の為行えていない。運営推進会議は地域住民等に向けて、介護支援や火災訓練等の勉強会資料作成し、電話・郵送等で意見交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回会議を開催し、入居状況や行事等報告をしている。現在は、コロナ禍の為報告書等作成し各委員と電話・郵便等で情報交換を行いながらテーマに取り入れ、意見が会議に反映されるように活かしている。また、緊急時等での協力依頼や情報共有に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	定期的に入居状況等を担当者に報告している。地域包括支援センターとは入居状況や待機者の情報を常に共有する為に、協力関係が深められるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は安全面を考慮し内側から施錠しているが、入居者が希望する時には可能な限り、開錠し付き添いを行っている。居室内は状況に応じてフットコール、ベッド柵等使用が必要な時は家族の同意を得ている。外部の研修の参加や施設内勉強会を実施し、意識向上に努めている。3カ月に1回、身体拘束委員会会議を開催し、施設内の問題等に対して協議している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待に関する外部研修への参加、施設内で勉強会等を委員会を中心に実施し問題解決に取り組んでいる。毎月、フロアー会議で入居者の対応等を話し合い検討している。皮下出血や外傷発見時には報告書を提出し、それに基づいてカンファレンスを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な方には、家族へ制度の活用について助言や書類作成に伴う情報提供を行っている。また、職員に対しても勉強会等を行い、制度について学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退居時には、本人と家族へ口頭と書類にて説明を行い同意を得ている。また、改定時にもその都度口頭で説明したり、書面を送付して、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍の為、電話連絡にてカンファレンスを行ない、近況報告、家族からの意見や要望を確認できる場を設けている。苦情発生時は早急に対応、解決するよう取り組んでいる。法人で運営するフリーダイアルの相談窓口を設けており、意見等あれば連携して対応するようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やフロアー会議、リーダー会議等を開催し、各職員の意見等を施設運営に反映させている。また、会議の開催前には、事前に意見や提案を上げやすくする為、意見書を配布し、職員が意見しやすい工夫をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回管理者による人事考課の機会を設け、職員1人1人と面接を行っている。個々の意見や勤務における希望を聞きつつ、人事評価の適正や法人内での異動の希望を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力や希望に合った研修が受けられるように努めているが、コロナ感染予防の為、法人内の研修は、リモートで実施、施設外での研修はコロナ対策をされている所に参加している。研修内容は発表する場も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の地域密着施設の合同会議の開催や行事への参加、人事異動による情報交換等で施設内で活かせるものは取り入れている。現在はコロナ禍に伴い、リモートによる交流で意見交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接を行い、本人の要望や生活状況等を把握しつつ、不安や困っていることが無いか、本人の話を傾聴し、安心して施設の生活が送れるよう環境作りに努めている。また、他入居者との関係性にも配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居契約時に、家族の要望や不安なこと、困りことを聞き、安心して頂けるように説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報提供や面接での情報をもとに、必要なサービスを検討し、利用開始時から支援が受けられるようにしている。また、本人や家族の意向をカンファレンス等で確認した上で、必要があれば他のサービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活についての本人思いを尊重しながら、なにげない言動から、得意なことやできること等を見つけ、その能力を活かし、達成したことを共感できる関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族との距離感・関係性を大切にしつつ、趣味趣向などを家族からアンケートを取り、ケアに活かしている。共に支援できる関係を作り、意向に沿うよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍でしていないが、家族の協力のもと、馴染みのある場所への外出や外泊の機会を作っている。日常会話の中で馴染みの人や出身地の話をする等、関係が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は話のしやすい方同士が居れるよう配慮している。家事作業やレクリエーションを一緒に行う機会を設け、入居者同士の関係良好に努めている。会話では職員が間に入り、打ち解けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も、本人や家族がいつでも相談できる関係作りを行い、状況に応じて相談に乗り、法人内の情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前には施設などからの情報提供をもとに、家族や本人の意向を聞いたりして、少しでも本人の過ごしやすい環境作りを行っている。また、本人本位を行う際には、日頃の言動や意向が汲めるように、日々記録に残している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴アンケートを行っている。また、家族からの話や本人との会話の中で、生活歴を把握し、家族の協力のもとケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録や伝達ノート等で、日々の様子や心身状態の変化、ケアの方法について記録に残し、職員全員が把握できるように努めている。現状にあった一人ひとりの過ごし方が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	課題やケアの見直しを、月1回のケアプラン評価やフロアー会議等で行っており、本人がより良く生活できるよう努めている。また、ケアプランは多くの職員の意見を取り入れて立て、家族への説明は、現在は電話や郵送にて行い、同意を頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアプラン実施を分かりやすく記録に残し、職員全体が情報を把握できるように努めている。月に一回フロアー会議を実施し、ケアや介護計画の見直し等あれば検討し、入居者のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人内の多種に渡る事業や運営施設との協力体制のもとで、本人や家族の状況やニーズに沿ったサービスを提供出来るように体制を整えている。また、退居時は必要に応じて、他施設への入所等の提案や引き継ぎ支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、地域のお祭りや、外出行事時の飲食店利用などは行えていないが、ドライブ行事を行い地域や地元の様子を見てもらっている。入居者と地域の繋がりがなくならないよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望する病院や必要な各協力病院に対して、かかりつけ医に相談し、必要な治療が受けられるように、日頃から関係を築き、必要に応じて受診等、依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医の看護師に定期訪問してもらい、利用者の排泄状況や身体状況を報告、相談し、看護師より助言や指導を受け、適切な看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と連携し、状態確認や退院後の支援方針等、話し合いを設けている。退院時、病院関係者の情報をもとに退院後、適切な支援を行い安全な生活が送れるよう努めている。かかりつけ医には常に連携がとれるよう報告等を行い、入退院の対応を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期について口頭及び書面にて説明を行い、同意を得ている。重症化する前から家族には様子を細目に説明し、施設でできる事の方針を決め、ケアの方向性を共有しながら行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時や緊急時対応のマニュアルを作成し、事務所内の目につく所に掲示している。また、定期的に事故や急変時を想定した訓練の実施や勉強会では夜間想定等も行っている。外部研修の参加にて知識向上に努め、他職員にも情報を提供している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	現在はコロナ禍で防災訓練を消防署、地域住民を交えて合同で行うことができないが、施設内だけで年2回、日中、夜間を想定して避難訓練を実施している。避難時の対応や避難経路の確認等、全職員が対応できるように努めている。また、地域活動時や運営推進会議にて、地域住民の協力を得られるよう働き掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理解しやすい言葉かけや個々の生活歴に合わせた支援方法で対応するようにしている。一人ひとりの思いを受容し、否定的な返答や必要以上の支援をしないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	希望が出やすいよう、個々の思いに耳を傾むけ、遮らず寄り添うようにしている。自己決定が困難な方でも、可能な限り本人が決められるよう選択肢を増やし対応し、思い等を上手く相手に伝えられない時は代弁をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の状態や希望に沿い、落ち着いた生活空間の中で、可能な限り1人ひとりのペースを大切にしている。食事、入浴等の日常生活全般を本人に合わせて支援するように心がけ、ケアプラン等に活かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時や外出時に本人と一緒にお気に入りの服を選び、その時々に応じた服装をしてもらっている。また、契約時には出張サービス利用の有無を確認している。月1回、理美容師に来てもらい本人や家族の希望に沿った利用をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力に応じて本人の意思を尊重しながら、食事の準備、片付けをもらっている。また、おかずは一人ひとりの食べやすい大きさに合わせて提供している。		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者個々に合わせた食事量や水分量を提供している。体重やその他、健康状態等を把握し、食事量や水分量の調整をしている。食前や入浴後にも水分を提供し、1日の水分摂取量を確保している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の汚れ、臭いを防ぐ為に毎食後と起床時に口腔ケアを行い、自力で口腔ケアができない場合は、職員が介助を行っている。月1～2回、歯科往診にて、口腔内の清潔を保持している。また、専門医からの口腔ケア等の指導や助言を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々に合わせた排泄対応を行い、本人の自尊心を傷つけないよう注意し支援している。できるだけ失敗が無いよう、排泄の間隔や行動を確認し、トイレ誘導やパット類の見直しを臨機応変に対応している。その際、職員間で情報共有を図り、統一した対応ができるようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々に下剤コントロールを考え、排便困難にならないようにしている。また、おやつに乳製品を多く取り入れたり、水分の提供を増やす等、薬に頼り過ぎないようにしている。排便の際は、便の形状や量を観察して、異常がある場合はかかりつけ医に報告・相談、下剤調整等している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>業務の都合上、日中に入浴となるが、個々の希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。入浴を楽しめるように、本人のペースや尊厳に配慮し、自身でできることはしてもらいながら、必要に応じて介助している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>個々の生活習慣を考慮し、多様 な寝具、用具を用い、安心安楽 な睡眠、昼食後等に休息ができ るように支援している。不眠が 続く際は、日中の活動量の増 加や排便状況の見直しを行い、 かかりつけ医に報告・相談して いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬の用法、用量、副作用を薬剤 師より指導を受け、1人ひとりの 状態に合わせた服薬方法を理 解し、服薬介助している。薬の 変更や追加等あれば、職員間 で情報共有し、状態に変化等 見られた場合はかかりつけ医に 報告・相談し身体、精神状態に 合わせた対応を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>日々の生活の中で、役割を提供 することで、生きがい、楽しみ のある生活となるように支援し ている。本人の生活歴を考慮し 、嗜好品の提供や趣味活動等 、生活に励みを持てるように 支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。</p>	<p>本人の希望や体調を考慮し、 屋外に出て気分転換が行える ように支援している。コロナ禍 で行えていないが、通常では 地域の人も参加できる行事の 開催や地域行事への参加等、 地域交流を図れるよう支援し ている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>利用者がお金を持つことの大切 さを職員は理解し、個々の希 望、状態に応じて使用できる ように支援している。コロナ禍 で制限されるが、外出行事の際 にお金を使う楽しみを感じて もらえるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(東フロアーユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話を所持されている方には、自由に家族等へ連絡してもらっている。必要に応じて電話を取り次いだり、こちらから掛けてやり取りをしている。年末には家族宛に年賀状を送付している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間には会話がしやすいようにテレビやソファを設置し、入居者が製作した季節毎に合った壁画等を貼り、季節感を感じられるようにしている。トイレの場所等が分かるように、ボードを貼る等工夫している。また、その日の気候に応じた空調管理や遮光カーテンを使用した過ごしやすい空間作りをしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間には大きなテーブルを挟んで会話が出来る場を作り、離れた場所にはソファを設置し、独りになれる場を設けている。一人ひとりが楽しく、気の合った方と穏やかにくつろげる時間を過ごせるように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>今迄生きてきた生活歴をもとに、趣味に合わせて、製作した作品や家族の写真等を飾っている。また、入居時には使い馴染んだタンスなどを居室に置き、心地よく過ごせるようにしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内は手すりや入居者に合わせた椅子を設置し、安全かつ使いやすくし、個人の能力を活かして自立した生活が送れるような工夫をしている。また、転倒や負傷の危険がないよう配慮し、環境整備を行っている。</p>		

V アウトカム項目(東フロアーユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき中山

作成日 令和4年5月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10・23	家族に対して、利用者の様子や状況等について、必要に応じて連絡・報告しているが、家族アンケートでは、事業所からの報告があまり頻回ではないという結果となっている。また、現在、コロナ禍で面会制限や家族会行事の中止により、利用者・家族の時間が少ない状況である。	定期的に利用者の様子や状況等を報告すると共に、家族と密な関係作りに努める。	<ul style="list-style-type: none">・定期的に電話連絡し、日頃の様子や状態について報告する。・ガラス越し面会やオンライン面会を継続する。・LINEを活用し、写真や動画を配信する。・アンケートにて、家族の要望や意向等を聴取する。	令和4年度中
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。